H-1　9/1 10:00
死ぬ前に達成すべき25の目標：人生というビッグ・プロジェクトをマネジメントする
＜25TTDB4YD: 25 Things To Do Before You Die＞

プラネット株式会社　代表取締役社長、株式会社ロゴ会長
代表取締役　中嶋　秀隆

【セミナーの狙い】我々の一生の中に、PMの手法を取り入れるという発表者の「試案」をご提供し、ご批判を頂戴したい。

【セミナーコンテンツ】1人の人間がこの世に存在することは、たくさんの「セレンディピティ（幸福な偶然）」の重なりで可能になった。その意味を、PMのノウハウの観点から考えてみたい。プロジェクトの「制約3条件」を今日の人間の一生にやや乱暴に当てはめると、①時間は「80年」 ②資源は「所得+エネルギー」 ③スコープ・品質は「志+目標」と整理できるのではないか。リスク・マネジメントでは、リスク事象の期待値は発生確率と影響の積で求めるが、人間の死の発生確率は100%である。一方、現代社会は多くの刺激にあふれており、次々に立ち現れる刺激に反応を繰り返すだけでも、「80年」の相当部分が過ぎる。われわれが死を前提に、それまでに達成すべき目標を25コ設定し、実現に集中すべきという論点である。

【受講をお奨めする方】PMの手法をご自分の一生に当てはめることにご興味をもたれる方。

【講師略歴】茨城県つくば市在住。家族は妻、長男（大4）、次男（大1）。国際基督教大学大学院修了。京セラ（海外営業）、インテル（国際購買マネジャー、法務部長、人事部長）など、日米の有力企業に約20年間勤務。その間に、多数のプロジェクトにプロジェクト・マネジャーとして参画。現在、日本およびアジア地域のビジネスパーソンを対象に、プロジェクトマネジメント技法の研修、コンサルティングを行っている。慶応義塾大学非常勤講師。著書多数。

H-2　9/1 14:00
プロジェクト成功確率向上に向けた戦略的進化のための2つの視点
＜戦略的PMO&リーダーシップ力＞

アイシンク株式会社
代表取締役　CEO　伊藤　健太郎

【セミナーの狙い】プロジェクトは不確実性を本質的に保有すると同時に、生身の人間が実行する。また、組織内では複数のプロジェクトが同時に遂行されているためリソースの混乱や特定の人材への過負荷、納期遅延など多くの問題も生じやすい。しかし、プロジェクトの成功から組織が便益を得ないと、組織は次への成長に向かうことができない。つまりプロジェクトの成功確率を向上させることは組織の存続や成長に必要不可欠なことである。
そのためには、ただ目の前のプロジェクトだけに注意を払う対症療法では不十分である。このセッションでは、組織の本質的改善のための戦略的取り組みを考察していく。

【セミナーコンテンツ】①戦略的進化に必要な組織デザイン ②戦略的PMOの役割と導入方法 ③プロジェクトマネジャーのリーダーシップ力の獲得方法

【受講をお奨めする方】①組織の責任者 ②プログラムマネジャー ③プロジェクトマネジャー ④PMOの方

【講師略歴】福岡生まれ。九州大学大学院卒業後、NKK（現JFE）にて舶用エンジンや環境プラント（ごみ処理施設プラント）の国内・海外でのプロジェクトに参加。2003年5月にアイシンク（株）を設立し、プロジェクトマネジメントに特化したコンサルティング・研修を実施。著書として、「プロジェクトはなぜ失敗するのか」（日経BP社）、「戦略的エンタープライズ・プロジェクトマネジメント（翻訳）」（生産性出版）などがある。PMI®会員、PMAJ会員

K　9/1 10:00
プロジェクト計画に必要なPMコンピテンシー開発ワークショップ
＜PMコンピテンシーを強化する行動習慣とセルフメンタリング＞

SIG　ワークショップ

PMコンピテンシーSIG
好川　哲人（プロジェクトマネジメントオフィス）、加藤　隆（エデュコム）

【セミナーの狙い】このワークショップは、PMコンピテンシーSIGで開発したPMコンピテンシー開発手法をワークショップの形で提供するものである。ワークショップ全体は7つのセッションがあるが、今回は特に計画プロセスに焦点を絞り、計画作業を行う際に必要になるPMコンピテンシーの開発を目指す2つのセッションを行う。

【セミナーコンテンツ】セッション1は、目的（ゴール）の明確化に関するセッションで、目的管理の方法について解説したのち、ケース演習により、目的を持ってプロジェクトマネジメントを進めることのイメージをつかむ。セッション2はステークホルダとの共通認識を作るセッションで、コミュニケーションとは何かについて述べたのち、コミュニケーション計画を策定し、そのロールプレイを行うことにより、共通認識を形成するプロセスのイメージをつかむ。最後に、これらのイメージを行動習慣化するための手段として、セルフメンタリングについて解説する。

【受講をお奨めする方】①プロジェクトマネジャーまたはメンバー ②PMOメンバー ③人材育成担当者

【講師略歴】好川哲人：神戸大学大学院工学研究科修了後、三菱重工業、京都高度技術研究所を経て独立。その後、神戸大学においてMBA取得。技術開発型企業の組織・経営マネジメントのコンサルティングに従事。
加藤隆：1986年KPMGにて経営コンサルティングを担当。1989年Pess Time（ヒューマンスキル教育専門会社）にて研修講師（ファシリテーター）及び教育コンサルティング担当。1997年人事教育コンサルタントとして独立。2002年エデュコム設立　代表を務める。

L　9/1 10:00
若手PM向けWBSワークショップ

有限会社デム研究所
代表取締役　城戸　俊二

ワークショップ

【セミナーの狙い】WBSはチームでものごとを進める際の核となる枠組みであり、プロジェクトに於いてはステークホールダーが作業の状態を認識するための共通の手段（視点）で、統合マネジメントの要である。本講はPMの要素技術がその要（WBS）にどのように関連付けられているかを、演習キットを介してビジュアルに修得する。

【セミナーコンテンツ】数名毎のグループ演習形式で行う。演習には講師が準備した教材（演習シナリオとWBS／スケジュール組立キット）を用いる。講座進行はまずWBSやスケジュール、プロジェクト組織に関する基本的な知識をおさらいした後、汎用的な演習シナリオとして“マイホーム建設”プロジェクトを用い、WBS、スケジュール、役割分担表を立体的に組立てる。最後に各グループの作品がWBSの役割（ステークホールダーに共通の視点を提供）に適っているか否かをグループ相互に鑑賞（評価）し合う。

【受講をお奨めする方】今からPM職に携わる方、或は同等レベルの職務経験を持つ方。但しWBS、スケジュールについて初歩的な理解をしていること。

【講師略歴】昭和37年九州大学工学部卒、同年4月東洋エンジニアリング（株）入社。同社でPE、PM、PCM、PMS技師長などに従事。平成10年定年退職。同年㈲デム研究所を設立、PM教育講師、企業のPM手法導入、業務機能分析支援などで現在に至る。【PM関係社会活動】平成6年(ENAA)PMSS分科会長、平成7、8年(同)CAE/PMS分科会長および幹事、平成2～10年(同)PM講習会講師。現在、厚生労働省高度ポリテクセンターでPM講座講師。PMAJ理事、同PMリソースセンター長。